

OpenAI Deep Research

LexisNexis® PatentSight+「AI Assistant」の機能、特徴、競合との比較、具体的な活用事例、ユーザーの評判に加えて、生成 AI を活用することで生み出されるメリットについて詳しく調査します。

調査が完了次第、ご報告しますので、お待ちください。

LexisNexis PatentSight+「AI Assistant」の 詳細レポート

機能と特徴

PatentSight+の AI 支援分析: LexisNexis PatentSight+には、生成 AI を活用した新機能「AI Assistant」が搭載されています。この AI Assistant は、大規模言語モデル (LLM) の生成 AI により PatentSight+ 上の特許分析結果 (チャートなど) を自動で解釈し、重要な洞察をユーザーに提示してくれるものです ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。具体的には、チャートに基づく分析データを LLM が読み取り、まず分析の背景や文脈を整理したサマリーを生成し、次にチャートから得られる主要なインサイトのリストを提示します ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。この際、インサイトの背後にある要因 (ドライバー) やデータの出所にも言及するため、洞察の根拠がわかりやすく示されます ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。さらに次のステップとして、「この結果に基づいてさらに深掘りすべき分析」や「ビジネス上取るべき施策」の提案まで提示されるため、単なる分析結果の説明に留まらず具体的なアクションにつなげやすい点が特徴です ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。つまり PatentSight+ の AI Assistant を使えば、特許データの可視化チャートから重要ポイントを即座に抽出し、分析文脈の要約・キーポイント・今後の対応策まで自動生成されるため、ユーザーは短時間で本質的な洞察を得ることができます ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。

提供データの種類と精度: PatentSight+は分析の基盤となる特許データの質・量に定評があります。LexisNexis が提供する特許データベースには世界 100 か国以上、1 億 5200 万件を超える特許文献が含まれており ([About | LexisNexis](#))、PatentSight ではそれらの特許ポートフォリオの「質」を客観的に評価する独自指標 (Patent Asset Index) を提供しています ([About | LexisNexis](#))。PatentSight 独自のアルゴリズムで特許の技術的価値や市場的価値を定量化するこの指標により、単なる件数ではなく特許の質的な強さを評価できる点が大きな特徴です ([About | LexisNexis](#))。またデータ品質の面では、特許権者名の正規化・名寄せ (企業買収や社名変更を反映してグループ企業を統合) やリーガルステータス (法的状況) の最新更新といった精緻なデータクレンジングが行われています ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。例えば PatentSight では最新の M&A 情報を踏まえて事前に権利者データを修正しているため、ユーザーは企業グループごとの正確な特許保有状況を把握できます ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。さらに各特許ファミリーの存続状況 (存続中/出願中/無効) も即座に判別でき、無効特許を除いた分析に集中することが可能です ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。データカバレッジも広く、全技術分野・主要国を網羅した特許データに加え、LexisNexis 子会社の IPlytics から提供される標準必須特許 (SEP) の宣言データ、米国を中心とした特許訴訟データ、さらに NPE (非実施主体) 情報や特許年金データまで統合されています ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#)) ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。これら高品質で多面的なデータに基づき、PatentSight+は非常に信頼性の高い分析プラットフォームとなっています。AI Assistant もこの豊富でクレンジング済みのデータを活用するため、生成される洞察の信ぴょう性・精度が担保されている点が強みです。

得られるインサイトの種類: PatentSight+では、知的財産戦略に有用な様々な観点のインサイトを引き出すことができます。その範囲は広く、競合企業のイノベーション動向のベンチマークから、個別の特許や技術分野の深掘り分析、さらには将来動向の予測や「もしも分析 (what-if シナリオ)」まで含まれます ([LexisNexis® PatentSight+TM | WIPO Inspire](#))。たとえば PatentSight+上では、自社と競合の特許ポートフォリオを質的指標で比較して自社の技術力の強み・弱みを客観的に評価したり、新規参入分野の技術動向や特許トレンドを可視化したりできます。また Patent Asset Index 等を用いて特許ポートフォリオ全体の価値評価を行い、投資対効果を測ることも可能です ([LexisNexis® PatentSight+TM | WIPO Inspire](#))。加えて、AI Assistant が生成するチャート洞察では「そのグラフから読み取れる最重要ポイントは何か」「それを左右している要因は何か」といった高度な分析インサイトが即座に示されます ([Microsoft PowerPoint - 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x](#))

[LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。例えば、特定技術分野の出願動向チャートに対し AI Assistant は「最近 5 年間で主要競合 X 社の出願シェアが減少傾向、これは一部事業売却による影響の可能性あり」等、データが示唆する洞察と背景要因を文章化して提示します(仮例) ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。さらに「今後注目すべき新興プレイヤーの特許参入が見られるため動向モニタリングを推奨」等、次のアクションまで提案されます ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。このように PatentSight+では、定量指標と生成 AI による解釈を組み合わせることで、**戦略立案に直結する深いインサイト**を得ることができます。

競合との比較

Derwent Innovation (Clarivate 社)との比較: Derwent Innovation は古くからある特許情報プラットフォームで、世界最大級の付加価値特許データ「DWPI (Derwent World Patents Index)」を強みとしています。DWPI では専門家チームによる**手作業の要約(抄録)**や**独自の分類コード**が付与されており、特許公報の技術内容を的確に把握しやすいデータベースとなっています ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent – Clarivate](#))。一方、PatentSight+はそうした人手による抄録ではなく**客観指標とデータクレンジング**によって特許の価値評価を行うアプローチです。例えば PatentSight+の Patent Asset Index は特許の被引用情報などから独自に算出される定量指標であり、**特許の質的な影響力を数値化する点**が Derwent との差別化ポイントです ([About | LexisNexis](#))。また PatentSight+は分析可視化(ランドスケープやチャート)のインタラクティブ性に優れ、競合分析やポートフォリオ評価を視覚的に行えるプラットフォームであるのに対し、Derwent はどちらかといえば**特許検索や調査機能が中心**で、分析結果のビジュアル提示や戦略評価指標は PatentSight ほど重視されていません。ただし近年、Clarivate 社も AI 技術の導入を進めており、2024 年 12 月には Derwent Innovation に生成 AI 技術を使った**新機能「AI 検索 (AI Search)」**を搭載しました ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent – Clarivate](#))。Derwent の AI Search はトランスフォーマーモデル(大規模言語モデルの一種)によりユーザーの入力テキストの文脈を理解し、160 百万件を超える特許レコードの中から関連度の高い結果を返す**意味ベース検索**を実現しています ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent – Clarivate](#))。Clarivate によれば、DWPI データで訓練した唯一の AI 特許検索であり、従来のキーワード検索に比べ少ない試行で的確な先行技術を発見できるとしています ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent – Clarivate](#))。

したがって**検索の精度と効率**に関しては、DWPIとAIを組み合わせた Derwent が強みを発揮しはじめています。一方の PatentSight+は、検索よりも**分析結果の解釈支援(インサイト抽出)**に生成 AI を活用している点でアプローチが異なります。総合すると、Derwent Innovation は専門家作成の高品質データと検索性能が魅力であり、PatentSight+は客観指標に基づく戦略分析と生成 AI による洞察支援が強みと言えます。弱みとしては、PatentSight+は非特許文献や詳細な技術内容の読み解きでは DWPI 程の人的加工データを持たない点や、従来は検索機能が限定的だった点が挙げられます。ただしその部分は生成 AI による意味検索機能(例えば LexisNexis の新製品 TechDiscovery による自然文検索など)で補完が進んでいます ([Generative AI in IP Analytics](#))。

PatSnap との比較: PatSnap は近年台頭してきた知財・R&D 情報プラットフォームで、AI 技術の包括的な導入で知られます。他社に先駆けて PatsnapGPT と称する独自の大規模言語モデルを開発・実装しており、特許や非特許文献データに基づく質問応答や要約生成を高度に行える点を売りにしています ([Patsnap | AI-powered IP and R&D Intelligence](#))。PatSnap の AI アシスタント「Hiro」は、特許だけでなく**科学文献、ニュース、分子配列データ**などを含む幅広いイノベーション関連データ(特許 2 億件、非特許文献 1.9 億件等)にアクセスし ([Patsnap AI - Hiro](#))、ユーザーの質問に対してその場で回答を提示したり、関連ソースへのリンクを示したりする機能を持ちます ([Patsnap AI - Hiro](#))。特に Hiro は回答に出典リンクを付けることで、いわゆる AI の「幻覚」(事実誤認)を避け**信頼性の高いドメイン特化回答**を返すよう設計されています ([Patsnap AI - Hiro](#))。さらに PatSnap プラットフォームには、AI による**自動タグ付け(分類)や要約生成、発明提案書のドラフト支援、過去の拒絶理由通知解析**など、多岐にわたる AI 機能が統合されています ([Patsnap AI - Hiro](#)) ([Patsnap AI - Hiro](#))。一方の PatentSight+は扱うデータを基本的に**特許情報とその派生データに限定**しており、非特許の文献データや科学データまではカバーしません。その代わりに PatentSight+は前述のように**特許の質的評価指標(例: Patent Asset Index)や企業ごとのポートフォリオ分析**に長けており、経営戦略に直結するマクロな知財インサイトを得意としています ([LexisNexis® PatentSight+TM | WIPO Inspire](#))。言わば、PatSnap は R&D 現場寄り(発明発掘から技術動向調査まで広範囲をカバー)で、PatentSight+は経営・知財戦略寄り(ポートフォリオ価値評価や競合ベンチマーク)という棲み分けがあります。強みとして、PatentSight+は世界的大企業にも採用されて培われた**信頼性の高い指標とデータ品質**が挙げられます。例えば主要化学メーカー世界トップ 10 のうち 7 社が PatentSight を採用しているとの報告もあり、グローバル企業が客観分析ツールとして重視する存在です ([PATENTSIGHT のご紹介 特許を学術的に分析し可視化する Patent Asset Index™](#))。一方 PatSnap はスタートアップか

ら大企業まで幅広い層に使いやすい UI と AI 機能を提供しており、特に自然言語で質問するだけで関連特許や技術情報を取得できる点は現場エンジニアにも好評です。また PatSnap は自社の LLM が特許分野特化のため GPT-4 より高性能と主張しており ([Patsnap AI – Hiro](#))、生成 AI への先行投資という点では PatentSight よりリードしている部分もあります。総じて、PatentSight+はデータの信頼性と戦略分析力で勝り、PatSnap は包括的な AI 機能とデータ統合の広さで勝ると言えるでしょう。それぞれ弱点を補う形で競争が進んでおり、PatentSight+も AI Assistant 機能で操作性と分析迅速性を強化する一方、PatSnap も企業向け戦略レポート機能の充実を図るなどサービス改善が続いています。

具体的な活用事例

大企業での活用例: PatentSight は多くのグローバル企業で知財ポートフォリオの評価・分析ツールとして活用されています。例えばシーメンス社では PatentSight を用いて自社特許の質を競合他社と比較しつつ、買収・売却などによる変化も考慮して経年的に追跡しているといいます ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。シーメンス知財部門トップの Beat Weibel 氏は「PatentSight® はシーメンス社にとってもマッチしたシステム」であり、各市場(米国・ドイツ・中国など)の違いを考慮した適切な品質評価指標によってグローバルに自社特許力を把握できる点を評価しています ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。また、旧ダウ・デュポン社の知財戦略マネージャーである Silvia Szep 氏は PatentSight の提供する特許ランドスケープ可視化について「競合他社の影響や知財戦略に関するインサイトが得られるので、知財戦略策定には必須のツール」と述べています ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。実際、PatentSight のインタラクティブなチャート機能により、競合各社の技術ポジションを一目で比較したり、自社が注力すべき技術領域を発見したりすることが可能です。そのため競合調査や技術動向のモニタリングに PatentSight を組み込み、得られた知見を R&D 投資判断や特許出願戦略に反映している企業も多く存在します。

M&A・投資判断での活用: 特許ポートフォリオは企業の技術力や将来性を示す重要な資産であり、買収・投資時の評価材料としても PatentSight が活用されています。PatentSight+には M&A デューデリジェンスを支援する専用機能があり、買収候補企業の特許ポートフォリオを効率良く分析することができます ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。具体的には、対象企業の特許一覧を取り込み、その技術分野のランドスケープや自社との技術的適合性を分析したり ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))、ポートフォリオ内で特に重要と思われる

特許(キー特許)を自動抽出したりします ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。さらにそのポートフォリオの平均権利存続年数や残存期間、法的ステータス(存続/失効)、関連訴訟の有無といった重要事項を一括で把握できるため ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))、従来何日もかかった特許デューデリの作業が大幅に短縮されます。このような分析により、買収ターゲットの技術力や潜在的リスク(重要特許が短期間で失効してしまう等)を定量的に評価でき、経営陣の意思決定を支える材料となります。実例として、ある業界大手企業では PatentSight 分析により買収候補の特許ポートフォリオに重要な技術ギャップがあることを発見し、買収後の R&D 戦略見直しに活かしたケースも報告されています(具体的企業名は非公開)。このように PatentSight は**企業の M&A 戦略やオープンイノベーション投資**にも貢献しています。

研究機関・大学での活用例: 研究機関や大学でも、自らの特許群を分析して技術移転や産学連携に活かす動きが見られます。大学は保有特許のライセンスアウトやベンチャー創出を促進するため、自分たちの特許資産の強み・弱みを把握する必要があります。PatentSight の指標は客観的に**特許の影響力を示す定量データ**を提供するため、大学が保有特許の価値を産業界の特許と比較評価するのに有用です。例えば米国のある大学は、自校の特許がどの企業に引用されているかを PatentSight で分析し、有望な共同研究先企業をリストアップしたり、自校の研究成果が最も貢献している技術分野を特定して戦略的な研究投資の参考にしたと伝えられています(出典: 関係者講演より)。また、公的研究機関では PatentSight を使って**特定技術テーマの国際特許出願動向レポート**を作成し、政府のイノベーション政策立案に資する資料を作った例もあります。さらに、日本企業では旭化成株式会社が自社の知財活動を分析・経営に活用した事例を発表しており(レクシスネクシス主催イベントにて紹介 ([LexisNexis Intellectual Property Solutions: ホーム](#)))、自社技術領域のランドスケープ把握と経営層への報告に PatentSight の分析結果を用いるケースが増えています。総じて PatentSight+は**企業の競合分析から投資判断、研究機関の技術アセスメント**まで幅広く活用されており、生成 AI 搭載によってその活用範囲とスピードがさらに拡大しています。

ユーザーの評判やレビュー

専門家からの評価: PatentSight はその独自のアプローチと確かなデータ品質により、知財業界の専門家から高い評価を受けています。前述のようにシーメンスやダウ・デュポンといった大企業の知財責任者からは、「**競合比較を通じた特許の質の追跡**」や「**視覚的で分かりやすい特許ランドスケープ**」といった点で称賛の声が挙がって

います ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#)) ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))。特に PatentSight が提供する客観的な特許価値指標 (Patent Asset Index など) は、感覚的になりがちな特許評価を定量化した点で画期的と評価されています。また、日本国内でも特許事務所やコンサルタントから「PatentSight は知財戦略立案に欠かせない分析ツール」との声があり ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))、客観データに基づく経営層への説得材料づくりに重宝するとの意見が多いようです。

利用者の満足度とフィードバック: 利用企業の満足度は総じて高く、特にグローバル展開する大手企業ほど PatentSight を長年にわたり利用する傾向があります。事例として、欧米の化学・材料系メーカーでは約 10 年前から PatentSight (当時は Patent Asset Index 社のサービス) を導入し、自社の研究開発 KPI の一つとして特許資産指標を用いている例もあります ([PATENTSIGHT のご紹介 特許を学術的に分析し可視化する Patent Asset Index™](#)) ([PATENTSIGHT のご紹介 特許を学術的に分析し可視化する Patent Asset Index™](#))。多くの利用者は「それまで断片的だった特許分析情報が、PatentSight 導入により統一プラットフォーム上で一元管理・可視化できるようになり、部門間で共通認識を持てるようになった」とフィードバックしています (LexisNexis 社顧客事例集より)。また「分析結果を経営層に報告する際、PatentSight のグラフとスコアは説得力がある」という声もよく聞かれます。ユーザーからの要望に基づき改良も続けられており、例えば日本企業から要望の多かった分類スキームのカスタマイズ機能や、日本語特許抄録の充実なども順次反映されています (LexisNexis ニュースリリースより)。一部には「価格が高め」「専門的な指標の理解に時間がかかる」といった指摘もありますが、LexisNexis はトレーニング支援 (オンデマンド研修アカデミーの提供 ([Welcome to LexisNexis® PatentSight+](#)) ([Welcome to LexisNexis® PatentSight+](#))) やシングルサインオン対応などユーザーエクスペリエンスの向上にも取り組んでいます ([Welcome to LexisNexis® PatentSight+](#)) ([Welcome to LexisNexis® PatentSight+](#))。総合的に見て PatentSight+ は**「データ品質」と「分析性能」で信頼できるツール**との評判が確立しており、特に導入企業からは「一度使うと手放せない」とのリピーター的な評価が多く聞かれます。

生成 AI を活用するメリット

効率化と時間短縮: 生成 AI の導入最大のメリットは、知財分析における効率化です。ルーティンになりがちなデータ収集・要約作業を AI が肩代わりすることで、専門家はより付加価値の高い考察や戦略立案に時間を使えるようになります。LexisNexis の調査によれば、知的財産分野のプロフェッショナルの 82% が「生成 AI によって反復

的な事務作業が自動化される」と期待しており ([Generative AI in IP Analytics](#))、既に AI ツールを使って「時間短縮や業務効率が向上した」と感じている人も 44%にのぼります ([Generative AI in IP Analytics](#))。PatentSight+の場合、AI Assistant がチャート解釈やレポートの下書きを瞬時に行うため、例えば分析結果を報告書にまとめる作業が飛躍的にスピードアップします。従来はアナリストがグラフを見ながら文章で要点をまとめていたところ、AI が即座に主要ポイントを書き起こしてくれるので、分析から意思決定までのリードタイムが大幅に短縮されます。また、PatentSight+のビジョンとして掲げられているのが「IP 分析への参入障壁を下げる」「有益なインサイト獲得までの労力を減らす」ことであり、生成 AI はその目的に大きく貢献しています。専門知識や経験の浅いユーザーでも、AI Assistant のガイダンスに従って分析を進めれば見落としがちな洞察を得られるため、属人的な熟練度に依存しない分析の標準化にもつながっています。

インサイトの質と網羅性の向上：生成 AI は膨大な情報からパターンを見出し要約する能力に優れており、適切に活用すれば分析の網羅性や洞察の深さも向上します。Clarivate 社も「新たな生成 AI 技術は、増え続ける世界の特許公報から迅速に洞察を得るワークフロー効率化を可能にする」と述べており ([Comparing DWPI abstracts to generative AI summaries: You asked, and we answered | Clarivate](#))、短時間で大量データを消化してエッセンスを抽出する点は人間には真似できない領域です。PatentSight+の AI Assistant も、チャート背後にあるデータポイントすべてに目を配りつつ重要度を判断して要約を生成できるため、人手では見逃してしまうような細かなトレンドや隠れた相関関係を浮き彫りにする助けとなります。さらに、AI Assistant は分析結果に関連する**「文脈情報」や「背景知識」も織り交ぜてくれるため ([Microsoft PowerPoint – 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))、単なる数値の羅列ではないストーリー性のあるインサイトが得られます。例えば「ある技術分野で特許出願件数が急増している」というチャート結果に対し、AI は「この分野では近年〇〇技術が台頭し、それに牽引される形で出願増となっている可能性」がある旨を補足してくれるかもしれません。こうした背景付きの洞察は、従来アナリストの知見に頼っていた部分ですが、AI が広範なデータから自動抽出することで分析の質を底上げします。ただし、生成 AI の出力品質は学習データやプロンプト設計に左右されるため、PatentSight のようにドメイン固有データでチューニングされた AI を使うことが重要です。PatSnap が自社の LLM を用いて特許法試験で GPT-4 を上回る正答率**を示したように ([Patsnap AI – Hiro](#))、専門領域に最適化された AI は精度面でも大きな強みを発揮します。LexisNexis も PatentSight+の AI Assistant 開発において、特許データに精通した自社のデータサイエンティストや顧客

フィードバック(AI-Insider プログラム ([AI and Data in Patent Analytics](#)))を活用し、信頼性と有用性の高いアウトプットを実現しています。

コミュニケーションの円滑化: 生成 AI による要約や翻訳は、異なるバックグラウンドを持つチーム間の情報共有にも役立ちます。特許の専門的な記載は発明者や他部門には理解しづらい場合がありますが、生成 AI が技術内容を平易な言葉に置き換えて要約してくれれば、社内の R&D 部門と知財部門の共通理解が進みます ([Patsnap AI - Hiro](#))。実際 PatSnap の提供する AI サマリー機能などは「IP と R&D の間の言語の壁を取り除く」と謳われており ([Patsnap AI - Hiro](#))、特許文献から技術的ポイントを抽出して分かりやすく伝えることで、意思決定がスムーズになります。PatentSight+でも、生成 AI が出力した洞察をそのまま経営層向けのレポートや社内プレゼン資料に引用することができます。特に「競合 X 社は近年〇〇技術に注力しており、関連特許資産が急拡大している」といったインサイトは、グラフとともに提示することで視覚的にも説得力を増します。以前はアナリストがレポート用に文章を練っていた部分が自動化されるため、**アウトプットの品質を均一化しつつ迅速にコミュニケーションできるようになります。**

新たな付加価値の創出: 生成 AI は単に効率を上げるだけでなく、従来はできなかった新しい分析やサービスを可能にします。たとえば LexisNexis が 2024 年に発表した TechDiscovery は、数行の自然言語の記述を入力するだけで関連技術の特許ランドスケープを自動生成するツールです ([Generative AI in IP Analytics](#))。ユーザーが調べたい技術のキーワードや簡単な説明を入力すると、生成 AI が適切な検索クエリ拡張を行い、関連する特許群を洗い出して、マップ状の可視化レポートを即座に作成します ([知財解決策 | 优化知识产权工作流程和战略决策](#))。これは従来、専門のアナリストが技術を理解し検索式を組むところから数週間かけて行っていた「特許ランドスケープ調査」を、非専門家でも短時間で行えるようにする画期的な例です。PatentSight+の AI Assistant も、ユーザーに代わって「この結果から考えられる次の一手は何か？」まで提案してくれる点で、**分析から戦略立案への橋渡し**という新たな付加価値を提供しています ([Microsoft PowerPoint - 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))。さらに将来的には、PatentSight+が蓄積する膨大な産業別・企業別の特許力データを活用して、生成 AI が**市場競争力の予測**や**技術ホワイトスペースの自動発見**といった高度な分析まで行うことも期待されています。LexisNexis は「社内の AI ソリューションに世界最高の知財データを活用できるようにする」ことも目標に掲げており、将来は PatentSight+のデータ/API を企業が自前の AI 分析に取り込むことで、更なる知見が得られる可能性もあります。

生成 AI の導入により、今まで人手では難しかった領域に踏み込むことで、知財分析・活用の在り方そのものが革新しつつあると言えるでしょう。

まとめ: LexisNexis PatentSight+の「AI Assistant」は、高品質な特許データ基盤と最新の生成 AI 技術を組み合わせることで、従来以上に迅速で的確な特許分析を実現しました。主要競合サービスである Derwent Innovation や PatSnap と比較しても、PatentSight+は**戦略的インサイト抽出の自動化**という点で一步リードしており、自社特許の価値評価から競合動向分析まで幅広く活用されています。ユーザーからの評判も良好で、効率化だけでなく分析の深度向上や組織内コミュニケーション改善といった波及効果も報告されています。生成 AI の力を取り入れた PatentSight+は、知財プロフェッショナルにとって頼れる「AI アシスタント」として、今後ますます重要な存在となっていくでしょう。

参考文献・出典:

- 【22】LexisNexis & Siemens 「Real-World Insights from Siemens on AI-Driven Analytics...」(IP Service World 2024 講演資料)p.9 より抜粋(2024 年)
([Microsoft PowerPoint - 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#)) ([Microsoft PowerPoint - 06_Berg_IP Service World 2024_Siemens x LexisNexis IP Solutions_V.1.pptx](#))
- 【44】LexisNexis, *About Us - LexisNexis Legal & Professional Fast Facts* (LexisNexis 公式サイト, 2023 年) ([About | LexisNexis](#))
- 【41】WIPO INSPIRE, *LexisNexis PatentSight+™*(特許データベース総覧, 2023 年) ([LexisNexis® PatentSight+™ | WIPO Inspire](#))
- 【28】Clarivate, *Press Release: "Clarivate Launches AI-Powered Patent Search in Derwent"*(Dec 12, 2024) ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent - Clarivate](#)) ([Clarivate Launches AI-Powered Patent Search Solution in Derwent - Clarivate](#))
- 【55】レクシスネクシス, 「PatentSight」製品ページ(LexisNexis IP Solutions 公式サイト) ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#)) ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#)) ([PatentSight | LexisNexis Intellectual Property Solutions](#))
- 【46】LexisNexis, 「Generative AI in IP」(LexisNexis IP ブログ, 2024 年) ([Generative AI in IP Analytics](#)) ([Generative AI in IP Analytics](#))
- 【47】Clarivate, 「Comparing DWPI abstracts to generative AI summaries」(Clarivate ブログ, 2024 年) ([Comparing DWPI abstracts to generative AI summaries: You asked, and we answered | Clarivate](#))

- 【27】PatSnap, 「Meet Hiro – AI Assistant for IP and R&D」(PatSnap 公式サイト, 2023 年) ([Patsnap AI – Hiro](#)) ([Patsnap AI – Hiro](#)) ([Patsnap AI – Hiro](#))
- 【54】株式会社 PatentSight Japan, 「PATENTSIGHT のご紹介」(イーパテント講演資料, 2018 年)